

日本山岳会 越後支部報

第 46 号

令和8年6月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 後藤 正弘

新潟県上越市新光町2丁目1-40

TEL・FAX 025-512-7561

広報委員長 諏訪 恵一



私の一枚

里山から2000m級の山を眺める
長岡で一年を通じて多くの人が登る里山 三ノ峠山
469mの山頂から運が良いと万太郎山から平標山へ
の2000m級の山々の稜線が目の高さですぐそこに
眺めることができる。
予期せぬ時間ができ、ふらっと登り山頂に着いた時、
その稜線を眺められるだけで幸せを感じてしまう。

撮影者 諏訪 恵一

越後支部八〇年の歴史を引き継ぎ、

仲間を増やし、未来へ

支部長 後藤 正弘

先の令和8年度支部総会において、
本年度の活動方針が決定された。その
なかで二つの重点課題について再度確
認したい。

一つは、昨年からスタートした「越
後支部活性化プロジェクト」の拡充と
支援です。

「越後の残雪期に一人で山に入り、
帰ってこれる人を育成する」を目的に、
対象者を「支部会員及び支部会員の友
人」として、3月11日山中で実践的に
スキルアップを図りながら、ニーズに
応じて登山教室を開催する。

スキルとは、①自分の現在地の確定
と通報ができる。②登山の軌跡を習得
できる。③自分で簡単なセルフレス
キューができる。④リーダーシップ、
パーティシップが習得できる。テキス
トは「安全登山ハンドブック」（日本
山岳ガイド協会）です。

当面、山行委員会企画の高倉山（6
月27日）と稲包山（9月27日）に、多
くの参加をお願いしたい。

この取り組みは、プロジェクトチー
ムだけでなく、支部全体の活動とする
ことが重要です。そのために会員の積
極的参加と具体的提案が不可欠です。

二つに、越後支部80周年記念事業
の「越後の峠・古道30選」です。記念
事業として、5年前から文献や現地踏
査、報告書作成を進めてきました。現
在、「越後山岳」第15号にまとめる作

業を行っています。12月の越後支部創
立80周年記念・祝賀晩餐会での出版を
目指しています。

「峠・古道調査」の発案は、202
0年（令和2年）に提案された日本山
岳会120周年記念事業の「山岳古道
調査」に、支部独自の峠・古道調査を
加えたものです。

越後の峠・古道調査は2021年10
月の諏訪峠からスタートして、202
5年7月の魚沼街道まで5年間で30ヶ
所（上越8、中越10、下越9、佐渡3）
の峠・古道調査を、延べ参加人数22
1名の協力を得て踏査しました。

越後支部は伝統的に山に登るだけで
なく、記録、歴史、山岳研究などを大
切にする気風があり、長く受け継がれ
てきた越後岳人の底力を示すものとな
りました。また、支部活性化にも大き
く寄与しています。

峠・古道の選定から、数化したルー
トなど予備調査を行い、地域の歴史や
エピソードなど文献調査、踏査・報告
と大変な取り組みでした。これまで、
支部報の「峠シリーズ」投稿数18とい
う実績からも、良き伝統が継続してい
るからこそ達成できた事業です。

この成果を、新たな山登りの形態と
して提案し、地域活性化や多様な山登
りに貢献できるようつなげていきま
しょう。

令和8年度

越後支部総会の開催結果

事務局長 玉木 大二朗

令和8年5月16日（土）、長岡市・長岡かまぼろ温泉旅館において、今年度の日本山岳会越後支部総会を開催しました。開催に先立ち事務局から議決数について、出席者35名、委任状提出者64名、有効議決数は合計99名であり、支部会則第9条の2により議決権のある支部会員数136名の半数以上に達していることから、本総会における承認事項の採決は成立することを報告いたしました。

総会での審議事項である第1号議案（令和7年度事業報告・決算報告）及び第2号議案（令和8年度事業計画・予算計画）については議案書どおり承認されました。その他の審議事項として、支部長から理事の

交代について総務委員会副委員長（会計担当）の佐藤博理事が健康上の理由により理事を辞退したいとの申し入れがあることを報告し、後任に総務委員の茂野伸行会員を推薦する件と、事務局から日本山岳会の準会員制度が廃止されることに伴い、支部会則に明記されている準会員に関する記述を削除する件が上程され、いずれも反対意見なく承認されました。

なお、同日開催された令和8年度越後支部第1回理事会において、支部内規の準会員に関わる条項を削除することが承認されています。

総会後、新潟県立歴史博物館学芸課・宮尾亨課長から「山と縄文人」と題して講演会を行っていただきました。遙かいにしへの縄文人が山の雪形から山菜を採る時期の目安としていたことやストーンサークルが山の方向に向けて配列されていた等、縄文人の山との関りなどを解説していただき大

変興味深い内容でした。

総会終了後の懇親会は26名が出席し、多くの方からいただいた差し入れの美酒を堪能して支部会員の交流を深めることができました。

総会及び懇親会に出席していただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。

鋸山親睦山行

松井 潤次

令和8年度支部総会が開催され、翌5月17日には17名の参加を得て開催地、旧長岡市の最高峰鋸山へ親睦登山を行いました。鋸山は東山連峰の主峰で尾根がノコギリのように見え、標高は765m、一等三角点が設置され、見晴らしも良く、信仰の山、峠の山として、また長岡市民の山として、多くの登山者に親しまれています。

当日は好天に恵まれ絶好の登山日和となりました。自車にて栖吉集落奥の花立峠登山口に集合し、本日のリーダー諏訪恵一会員よりコースの説明があり、皆さん、昨夜の疲れも感じさせず出発しました。

少し登ると捲き道となり、水量豊富な沢に沿って進むとしっかりした橋で沢を渡ります。沢音から心地よい清涼感が伝わってきます。急勾配のスギ林を過ぎると大モミジの休み場で、木陰の中、一息つきます。

その先、木陰道を抜けると旧水場です。少しですが水は出ていました。陽を受けな

がら、ひと踏ん張りして長工新道の稜線が見えてきました。急峻な懸崖を望むことができます。登りが続きましたが、花立峠に到着しました。広場には花立峠から萱峠までの長工新道完成を記念した立派な石造りの道標が設置され良い休憩地となっています。信濃川を挟んだ長岡の市街地や西山連峰が一望です。

しばらく休憩とし、萱峠方面に少し進むと越後三山の雄姿が遠望できます。また、キンランが黄金色の花を半開きにして咲き、撮影会となりました。

峠を後にして、半蔵金への分岐を過ぎるとノコギリ様の稜線を登降し頂上へ向かいます。ブナ林の中を森林浴の気分です。さほど広くない頂上で一同記念撮影をし、日陰を探して昼食としました。

帰路は往路に戻りました。気温もぐんぐん上昇し真夏日に迫る一日となりましたが皆さん快調な足取りで、無事下山できました。

最後に長寿の泉、天狗清水で喉を潤すと疲れが消えるほど甘露な味でした。この泉



キンラン



総会の様子



総会後の記念撮影



懇親会の様子

には風谷山の天狗の楽言があつて、「一杯は5年、二杯は十年、三杯で限度」と記されています。皆さんは何杯のみましたか。



鋸山山頂にて

支部総会講演会報告

諏訪 恵一

支部総会終了後、「山と縄文人」と題して新潟県立歴史博物館学芸課長 宮尾亨氏の講演があつた。

縄文時代は、約一万六千年前から一万年以上も続いたとの説明から始まり、その前の旧石器時代は石器しか作れない劣った技術だとか劣った文化と思われているが、石器は石を叩き割って作るの、土器のように作り直しができず、設計図もない中で石を叩くとどのように割れるかの物理的法則性を見出し、仕上りをイメージしてミ



宮尾亨講師

単位の加工を行う技術を持っており優秀なのだという話があつた。

また、縄文時代の始まりは土器が作られた時であり、そのことにより煮炊きが可能になって食べられるものの幅が広がり、定住が可能になったこと、縄文時代は稲作の到来により弥生時代へと移り変わり終焉を迎えたことの説明があつた。

縄文時代の人々は、太陽の運行に基づく「三三二分（夏至・冬至・春分・秋分）」を把握していて、環状列石（ストーン・サークル）や巨大木柱などの配置からそれを知ることができ、狩猟や採集の時期を知る暦（縄文カレンダー）として生活に関連付けられていたことが分かっており、夏至には堅穴住居の入り口から朝日が差すように家の配置が設計されていたことなども紹介された。

山との関わりでは、狩猟採集生活の糧を得る場であることや建物などの材料である木の調達、石器の材料になる岩石の採集など直接的なものがあるとともに、雪形によ

る農事暦のようなものもあつたらしい。集落を作る場所の選定でも目立つ山が影響を与えていたようで、津南町の大きな縄文時代の遺跡「沖ノ原遺跡」の夏至・冬至の日の出の方向である東には巻機山が見えているなど、すべてではないが、二至二分の日の出や日没の方向に目立つ山が多く存在しているため、縄文人は何か意味を持たせていたようだ。

また、いくつもの山の頂上に縄文人が残した道具（遺物）が見つかっている。

- ・甲斐駒ヶ岳（2966m）縄文後期土器
- ・男体山八合目（2400m）石鏃
- ・妙高山（2454m）打製石斧
- ・白山（2702m）独鈷石

・石鏃は飯豊山、立山、比叡山など多数。理由は明確ではないが、食料の調達のた



講演会の様子

めに登る高さではなく、移動ルート（尾根道）の確認や祭祀などの目的があつたのではないか。どんな装備で登ったかも気になるところである。

その他にも火焰型土器の分布域が信濃川中流域を中心にしており、今の新潟県域以外にはほとんど見つからないこと。それなのに、疎らではあるが東北地方北部まで似た様式の土器が点在していて、何かの交流があつたことをうかがわせたり、糸魚川の翡翠が北は北海道（利尻島など）、南は鹿児島県（種子島など）や沖縄県まで広範囲にわたり流通していたなど興味がそえられる内容が多かった。

【講演後の質問】

・一番古い火焰型土器はどこで見つかるか。

A. 土器の年代測定は今では放射性炭素（炭素14）の含有量の測定で科学的に行うが試料の質と量で精度の問題があり、どれが一番古かまでは特定できない。同じ遺跡の場合は層位的に下の層から出たものが古いことが分かる。

・縄文時代に言葉はあつたのか。

A. 文字は見つからないが言葉はあつた。例えば、火焰型土器など、異なった遺跡ではほぼ同様の形の模様が施された土器が発掘されているが、言葉なしに伝えることは無理だろう。

・佐竹信幸理事から飯豊山での石器の発見について地図とともに提供された。

第四十一回図書交換会

吉田 理一

日本山岳会では毎年図書交換会を実施している。今年は3月7日(土)にJAC本部で開催された。出品された山岳関連書籍は約700冊であった。

殆どが絶版となっている貴重な山の本が100円〜300円程度の超廉価で入手できるという年一回の機会である。古いガイドブック等は無料であった。

何点かの稀観本は入札によって購入者が決められた。入札本は新田次郎文学全集、川崎精雄「雪山蘆山」百部限定特装本、復刻梓書房版「山」全六巻、山口耀久「北八ツ彷徨」、山と溪谷創刊号〜第5号等10点であった。

私も段ボール四箱出品したが、一点は入札扱いになっていた。また、30年余にわたって刊行されていた「日本山岳会会員名簿」十数冊は個人情報保護の関係で出品で



きないとの連絡をいただいたので主催者に処分を一任した。

「同好の士」はいるものである。当日出席の越後支部会員は私を含めて3名であったが事前の大口購入申し込み者の中に支部会員のお名前も数名見受けられた。

地域の山

与板城山(よいたじようやま)

(107m)

森 庄一

長岡市与板町に所在する与板城山を始点や終点とするハイキングコースのメインコースを紹介する。

城山(与板城址)は、上杉景勝の執政として活躍した直江兼続居城で、もともと直



コースガイド

江氏は本与板城を本拠としていたが、信綱の代に与板城に拠点を移したと考えられている。

城は城山の頂上に実城と二ノ郭、三ノ郭を一列に配置し、それぞれの郭を深い堀切で区画している。実城の東側にも大きな郭が配置され、そこに兼続の妻・お船が水を汲みお茶をたてたといわれるお船清水がある。

現在、実城跡には城山稲荷神社がある。

登山口は、長岡市役所与板支所(「いね☆よいた」)から約400m北にある江戸時代越後屈指の豪商大阪屋(三輪家)別荘楽山苑である。別荘最上部から山道に入り、「草餅地蔵」前で舗装林道に出て右折する。別荘から30分弱で「うまみち森林公園管理棟」に着く。

キャンプ施設が設置されコース中の給水及びトイレはここ1か所のみ。元出雲崎道(うまみち)を進めば「大坂塔」に至る。

少し下り林道を左折し舗装林道を横断し20分ほどで「七曲り頂上」T字路に至る。左折し下りY字路を右に「逆谷林道」を5分ほど進み城山標識に従い左折し山の尾根道に入る。再び林道を進み道標に従って城山に向かい、「千人溜り」「大空堀」「三の丸」「二ノ丸」を経て城山「本丸」に至り、整備された道を下ると下山口「八坂神社口」だ。

コースタイムは120〜150分が標準だ。コースには方向表示された標識が多数設置されている。



草餅地蔵尊

他の登下山口は「山沢バス停」「大手口」「八幡公園」「清風園」「工業団地」「本与板城」「塩之入」等多数あり目的や時間により選択できる。

越後交通バスは、長岡駅〜与板・寺泊・小島谷の路線を利用し、登・下山口近くのバス停も多数ある。

下山後は日帰り温泉「志保の里荘」に寄ったらいかがだろうか。

「与板ハイキングコース・ガイド」が「いね☆よいた」にあるが、残部数が少ないようだ。

山本山スノートレッキング 参加報告

中條 絹枝

2月15日(日)、この度のスノートレッキングに参加させていただきました。出発時から天候に恵まれ、気持ちも晴れやかに



景色を楽しみながらトレッキング

小千谷総合体育館へ向かいました。現地でメンバーの皆さんと合流し、おじゃる駐車場からトレッキングを開始しました。

まず、調整池の周囲を歩き、十日町から隧道を通って水が流れ込む仕組みについてリーダーの松井さんから丁寧な解説をいただきました。調整池を過ぎて山中へ入ると熊の足跡と思われる痕跡を発見し、松井さんから「小熊のものだろう」と教えていた

だく場面もあり、自然の息吹を感じながら進みました。

続いて旧山本山スキー場の斜面を登りました。やや急登で頑張りどころでしたが、登り切ると再び平坦な道となり、その先には展望台が待っていました。

展望台では松井さんが温かい「けんちん汁」を振る舞ってくださり、冷えた身体に



楽しい休憩時間

染みわたる美味しさでした。

今回は雪山でわかんを装着し、急斜面や平地での歩行を体験する貴重な機会となりました。

天候にも恵まれ、まさに登山日和。山頂からは越後三山、守門岳、米山を望むことができ、眼下には信濃川と小千谷市街が広がる素晴らしい展望を楽しむことができました。

自然の魅力と仲間との交流が詰まった、充実した一日となりました。



令和8年度の行事予定

◎総務委員会

- ・12月12日 支部年次晩餐会（新潟東映ホテル）

◎事業委員会

- ・6月25日 大将旗山（郡山市）
- ・7月25日 高頭祭・松明登山祭
- ・10月22日 飯士山（湯沢町）
- ・11月5日 当間山（湯沢町）

◎自然保護委員会

- ・7月18日 高頭祭環境整備
- ・8月未定 笹ヶ峰オオハンゴンソウ駆除活動

◎山行委員会

- ・6月27日 高倉山（六日町）
 - ・9月27日 稲包山（群馬県）
- ※いずれもYOUTH委員会、越後支部活性化プロジェクト共催

◎越後スノートレッキング同好会

- ・1月11日 弥彦山初詣山行（弥彦村）
 - ・2月14日 米山（柏崎市）
 - ・3月14日 東谷山（湯沢町）
- ※いずれも令和9年

◎アルパインスキー同好会

- ・1月11日～12日 総会及び遭難対策研修（魚沼市須原スキー場）
 - ・2月14日 浅草岳（魚沼市）
 - ・3月14日 東谷山（湯沢町）
 - ・3月27日 焼山北面台地（糸魚川市）
- ※いずれも令和9年

◎日本山岳会

- ・6月20日 通常総会（東京都 プラザエフ）
- ・9月27日～28日 全国支部懇談会（富山市）
- ・10月3日～4日 中部ブロック交流会（魚沼市）
- ・12月5日 年次晩餐会（東京都）

●支部報発行時点で終了しているものは掲載していません。

第16回安全登山教室

『指導者養成講習会』参加報告

久保田 千歳

日時：2026年3月14日（土）

15日（日）

場所：安藤百福アウトドアアクティビティセンター

参加者：12支部28名（宮城、群馬、東京、東京多摩、神奈川、信濃、岐阜、静岡、東九州、埼玉、越後、東海（男性12名、女性16名）

2日間にわたり、机上講習と実践研修を受講しました。

1日目 机上講習

講義①信濃支部員 小池純司氏による『マ イセルフライン』の講義。

高所恐怖症だった先生は退職後、クライミングに挑んだら高所恐怖症がなくなったとお話されました。自分の好きな登山を続けるにあたり、今後必要となる次のことを教えていただきました。

- ・ 身体能力のほかに技術も必要
 - ・ クライミングするならロープワーク、下降技術も必要
 - ・ 雪山登山するにはウェアリング、ピッケル、アイゼン、ビーコン、滑落予防が必要
 - ・ 知識・・・地図読み、雪崩予測等
- 人生感を変えるほど登山に魅力を感じた私はこれから少しずついろいろな学んでいきたいと思いました。
- 講義②前常務理事で山岳ガイドの平川陽一郎氏から指導者育成講習会の目的として『自分で連れて行ったら連れて帰ること』の意味をお話ししていただきました。
- ・ 技術、知識、経験・・・知恵がでくる受講生（連れて行った人をさします）の「大丈夫」は信じないこと
- 体調を申告してもらおう（持病など）、持ち物や水分摂取量はリーダーが自分の目で確認する。
- ・ アクシデントの対応は最初の役割分担が大切（リーダーとスタッフで）
 - ・ リーダーは登山が終わっても連れて行った人を電車に乗せるまでが責任。
 - ・ 受講生の変化を感じ取る。言いにくいことをうまく話してもらえようような明るい雰囲気づくり。何事もポジティブに！先のことを話せるには下見も必要。
- 前を歩きながら後ろの人とコミュニケーションをとる大切さ
- 『登山は科学』・・・声の大きい人がリーダーではない。

- 安全登山に成り行きはない、先のリスクが分からないのが初心者。分かるのがベテラン。
- この後、装備についてのお話がありました。
- 一番冷たくなるのは『手』、濡らさない、風を通さない等
 - ウェアもメンテナンスが必要。洗濯をして、よくすぐこと。皮脂汚れは一番大敵で汗も吸わなくなってしまう。
 - 靴は早めに洗うこと。等
- 『理論が変わると用具が変わり技術が変わる』
- You Tube を観て知ったつもりでいる登山者が多い。
- 何かあったときにしっかり説明ができるかが大事。
- 2日目 実践研修**
- 黒斑山登山口から20分位歩いた分岐点で登山道からそれて実践開始。
- 少しだけ積雪のある斜面を見つけて一般の登山客に迷惑にならないよう実践開始。
- ①雪山歩行 4班に分かれて歩く練習（初歩中の初歩）アイゼン無しで。
 - ②ロープワーク 2人一組となり木と木にロープを結びスリングをつけて滑落防止の練習。その際のロープの結び方。カラビナの使い方スリング同士のつなぎ方等
 - ③ツェルトの張り方 張ったロープにスリングでツェルトを張る方法。
- 何度も何度も繰り返して、ペアになった

- 方と四苦八苦しながらの実践でした。
- 【最後に感じたこと】**
- 昼食の時間も忘れてみんなが一生懸命に実践していました。
- 一組ごとに出来栄を先生方に確認していただき、丁寧に教えていただいたのは本当にありがたかったです。
- 平川先生からは、机上講習をしてから実践に移るのが一番良い！とのことでした。
- 本当にその通りで、初めは不安でいっぱいでしたがみんなが同じ気持ちなんだとわかると少しだけ気持ちが楽になり、実践での体験はとても勉強になりました。
- この度の講習会に参加させていただいたのはこれからの私の山人生出発の宝物となることでしょう。
- ありがとうございました。
- 事務局からのお知らせ**
- 支部会員動向（令和7年9月～12月）
- 1新入会員
- 寺瀬 康明（会員番号17607）
 - 神田 敏雄（会員番号17608）
 - 関 祐子（会員番号17689、準会員から会員へ移行）
- 2退会会員
- 池本 順平（会員番号14172、会友）
 - 田中 栄弘（会員番号6230）
 - 佐藤 博（会員番号9647）
 - 那須 昭裕（会員番号A0460、準会員在籍期間終了離籍）

- 3物故会員
- 南雲 克良（会員番号5601）
- 4支部会員数（令和8年4月1日現在）
- 支部会員 136名
- 支部会友 8名
- 編集後記**
- まだ春だというのに連日のように夏日・真夏日が続いている。夏になったら一体どうなるのか今から心配になってしまします名称が決まったばかりの酷暑日が特別の日ではなく、普通の日になってしまいうだ。
- 高山でも涼しくなったり、最近では安全のため山頂での乾杯は無くなったが、小屋に着いて雪渓で冷やしたビールを楽しむこともできなくなるのだろうか。
- 気温とともに降水量も気になるところだ。降雨が無く、山火事の発生や発生した火災の鎮火にも悪影響を与えているし、枯渇しているダムもある。かと思うと突然の雷雨で道路が冠水したり、電まで降ってくる。
- 極端な気候変動に対応できるよう、情報収集と準備を常日頃から心掛けたいものだ。
- （諏訪 恵一）
- 